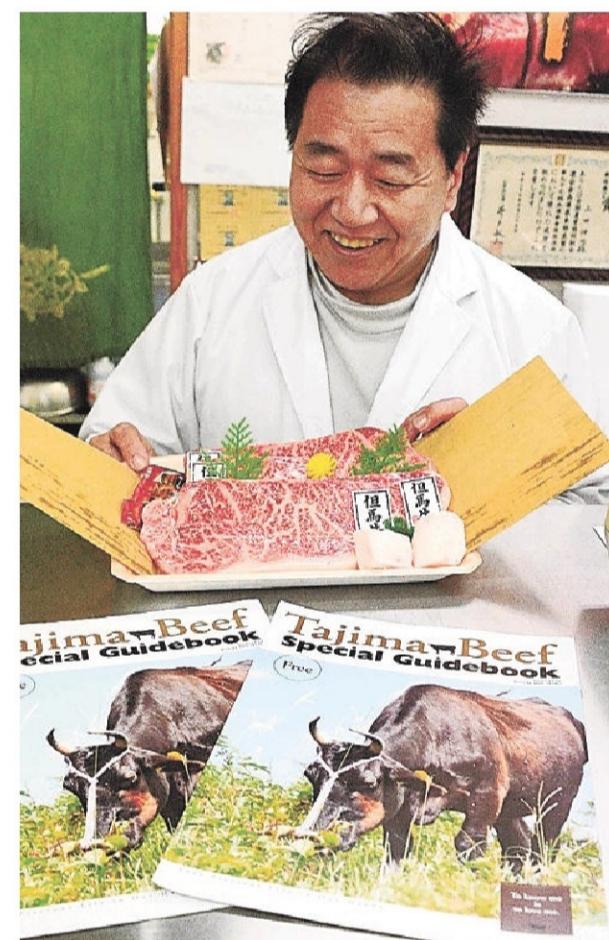


外国人観光客が注目



但馬牛を紹介する英語版パンフレット。美方
郡内でも海外向けPR活動を強化している

■筆者プロフィール
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政出
身。長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

神戸で但馬牛、神戸ビーフのレストランを営む知人から、「こんな話を聞いた。「外国人旅行者のお目当ての一つになっているようだ」という壁がある。これによつて国と国には動物検疫と統計を調べてみると、爆買いで有名な中国だけでなく、いろんな国からの旅行者が増えている。2015年に日本を訪れた外団人の数は、5年前の3倍以上になっていた。そのようなタイミングでマスコミではあまり取り上げられなかつたが、「今年1月15日からシンガポールに日本産の牛肉や豚肉をお土産として

渡辺 大直



★9★

持ち込むことができるようになった」というニュースを見つけた。国と国には動物検疫と統計を調べてみると、爆買いで有名な中国だけでなく、いろんな国からの旅行者が増えている。神戸ビーフは神戸を訪れる外国人旅行者のお目当ての一つになっているようだ

入の検疫を受けなければならず、お土産として持ち帰ることは事実上できなかつた。それが日本産で日本で販売された物であることを確認

動物や畜産物を介して伝染病が拡散するのを水際で防ぐことができる。一方、日本にやって来た外国人観光客が但馬牛や神戸ビーフを食べて「これはつましい。国のお家族に食べさせたい」と思つても、輸出

神戸ビーフの輸出は2013年に解禁された。その後は年々増え、2015年ではモナコ、香港に次ぐ3番目のお得

めたということである。

シンガポールへの但馬牛、

農林水産省は他の国に対し

ても同様の協議を行つて

いる。

意さんになっている。そのよ

うな実績から今回の合意につ

ながつたのかもしれない。

農林水産省は他の国に対し

ても同様の協議を行つて

いる。

ちょうど昨年12月には、国が農林水産物などにお墨付きを与える「地理的表示保護制度(GI)」に但馬牛と神戸ビーフが登録された。世界広いいえど、但馬牛と神戸ビーフは兵庫県で生まれ育つたものしかないと国が保護することになったところだ。

地域活性化の手法として、外国からの旅行者を誘致するインバウンド対策が注目されている。但馬牛、神戸ビーフを食べ、お土産を買い求める外国の旅行者が増えて、地域の元気につながつてほしいと願う。2016年1月15日は、但馬牛の歴史に刻んでおくべき日になるかもしれない。